

# すまいるたん



第187号

平成23年

8月13日

はい！東京新聞です  
内幸町 本社からの発信  
◎怖がったらきりはないけど



編集委員（元したまち支局長）  
植木幹雄

ゼノンのパラドックスという論理があります。こ

んな言葉を使うと、一気に読む気がしなくなりそう  
ですが、皆さんも内容は学校などで聞いたはずで  
す。豪腕投手が、思い切り捕手のミット

に速球を投げ込みます。しかし、これを机の上で  
計算すると、ボールはミットに届いていないとい  
う理屈が成り立ちます。投手が投げたボールは、必ず  
投手と捕手の真ん中の位置（仮にこれをAとします）

を通ります。さらに進んで今度はAと捕手と捕手の  
中間（Bとします）を通ります。次にBと捕手の中  
間（C）を通ります。これを繰り返していくと、ボー

ルは確実に捕手に近づいていきますが、距離が2分  
の1ずつ減っていくだけで、ボールはミットに届か  
ないこととなります。変な理屈ですが、数学・哲学  
上は正解です。ギリシャの哲学者アリストテレスの  
文献にもあります。

そんなこと、世の中にあつてたまるか！、と思  
いたくなりますが、実際にあるんです。今、日本を脅  
かしている放射性物質が出す放射線です。

放射性物質を紹介する場合、しばしば半減期とい  
う言葉が出てきます。セシウムなら三十年から五  
十年、プルトニウムなら何万年とか。多くの方が、  
この半減期が過ぎれば、安全という目安の数字と思  
っているかもしれませんが、これは単に放射線

を出す能力が半分になる期間のことです。セシウム  
なら、半減期を過ぎたあとまた三十年以上かけて、  
半分になり、また三十年以上かけて半分になるとい  
うわけで何回繰り返してもゼロにはなりません。

原子力の世界では、実際にゼノン理論と呼ばれて  
いるそうです。放射性物質の種類、量によっていつ

かは人体に影響のない程度になるでしょうが、福島第  
一原発に保管されている放射性物質の量は、ウランの  
量からも広島・長崎原爆の量をはるかに上回っていま  
す。

何しろ、日本には放射性廃棄物のリサイクル処理施  
設は二兆円かけて造ってもほぼ役に立たず、どこかに  
捨てるにも処分場がありません。このため、原発建  
て屋のプールに、使用済み核燃料という物騒な物が大量  
に保管されています。福島4号機が定期点検中で稼  
働していなかったにもかかわらず、重大事故を引き起  
こしたのもこのためです。

今、報道に携わる一人として、何度も自問自答して  
います。原発のある福島県で生まれ育ち、初任地は東  
海原発のある茨城県で、東海原発訴訟の結審、判決を  
取材し、一九九九年のウラン加工会社JCOの事故で  
は本社でサブデスクも担当しました。原発の怖さを知  
りながら、漠然と「重大事故はないだろう」と思いこ  
んでいました。折に触れて書いては来ましたが、果た  
して原発の真実を報道してきたのだろうか。

せめてもと事故以来、原発関連本二十冊以上、専門  
雑誌のほとんどに目を通し、コラムに書き続けていま  
す。

東電や経済産業省の発表では、原発は汚染水に手を  
焼いているものの、行程通りに進んでいることにな  
っています。しかし、一方で水素爆発で飛び散った放射  
性物質は二百キロ以上離れた場所でも確認され、非公  
式ながら原発事故周辺は当分人の住める場所ではな  
く、この見方すら、与党内の検討結果で出ています。

汚染は、大気、海水、山河から食品に広がっていま  
す。気にし始めたらしきりがありますが、東京新聞の  
事故対策コーナーや特報を読んでください。多くの本  
を読み、弊紙が一番分かりやすいと自負しています。

東電、経産省は原発が稼働しないと電力不足を招く  
と大騒ぎしています。これも眉唾？かもしれませんが  
我が家も、東電の発表が万が一本当だったらの備えと  
して節電はしています。

すでに太陽光発電も購入していますが、こちらを先  
に説明すると、訪問販売の売り込みは、業者によつて  
は説明もメチャクチャでした。停電でも安心とか売り

込みますが、豪雨や積雪の停電時は発電してくれず、  
少しでも曇ると発電量は一気にダウン。発電してい  
ても停電時に使える電力は制限されます。ほとんどの業  
者はそんな説明してくれません。自分で性能や雨漏り  
保証などの有無など十分調べ、知っている店か量販店、  
家を建てた住宅会社などに相談するのを勧めます。

でも、天気さえよければ、かなり頑張ってくれます。  
付属する液晶のパネルに現在家庭でどのくらい電力を  
消費しているか表示されるため、少しでも使用電力を  
減らそうと、無意識に努力し、電気代は大幅にダウン。  
契約電力を下げてても十分なこともわかり、基本料金も  
節約できました。照明はLED、さらに小型の蓄電池

も購入し、安い夜間電力で充電し、日中や夕方扇風機  
や書斎の照明に使っています。このメーターは、一般  
家庭用に太陽光発電無しでも使えるものが開発されな  
がら原発事故で生産まで進んでいません。  
太陽光、風力などの自然エネルギーは、まだまだ欠  
点も多く、また実力不足です。ですが原子力に投入し  
ている年間四千三百億円以上もの予算を本格的に回せ  
ば、もともと日本の得意な技術ですから開発は一気に  
進むでしょう。将来は、家庭や電力会社をつないで、  
電気の需要と供給をコンピューターで制御するシステ  
ムもできるでしょう。原発はいらなくなります。

◇  
したまち支局時代二年、編集委員になつてからも鬼  
塚さんの要請で一年と十月月、このコーナーを担当し  
てきました。紙面第一のため、これまでも業務時間に  
は書かず、帰宅後の深夜零時過ぎか休日に書いてきま  
したが、昨年九月からはゆめぼけっけ毎週四ページのデ  
スクもしており業務が増え、休日も役所の市民大学講  
座や講演、雑誌の原稿執筆（すまいるたん同様無報  
酬を条件に受け入れています）。また通常業務の調べ  
物をするが増え、このままでは業務への支障も予  
想されます。歴史や事件の裏話などまだまだ書きたい  
話がありますが、しばらくは不定期や休載になること  
をお許しください。